

東京の産業と教育

会 の 目 的

本会は産業界、教育界および行政当局が一体となって相互に連絡協調し、本都における国公立の中学校、高等学校、高等専門学校、短期大学および専修学校等の産業教育の改善・進歩をはかり、もって産業経済の自立発展に寄与することを目的とする。

次代を担う人材の育成と産業教育

公益社団法人経済同友会

執行役 藤 卷 正 志



わが国には、財政や社会保障をはじめ雇用・労働、教育など課題が山積していますが、未来に向けた持続可能な経済社会を実現するための施策について、産官学の様々な場で議論が交わされています。政府においても地方創生や一億総活躍プランなど、安定した経済成長を目指して各種政策が展開されています。

これらの政策を実効あるものとし、活力ある社会を実現する上で大切なのは人材であり、その育成を担う教育は、ますます重要となっています。特に産業教育は、ものづくりの現場はもちろんのこと、販売・接客や流通・運輸、行政での業務執行といった社会の第一線での活躍を目指す若者にとって、すべての基礎となる大切な教育です。意欲ある若者が伝統技術を吸収し、必要なスキルを磨いて地場産業を振興することや、付加価値の高い新たな事業の創造を担っていくことが期待されています。

一方、海外に目を転じれば、難民や格差など様々な課題を巡る大きな動きがあり、また、IoTやAIの進化など新しい科学技術の発展により、コンピュータが人知を超える可能性すら出てきています。いま世界で起きていること、これから起きることは、少なからず日本社会にも影響を及ぼします。ボーダーレス化の一層の進展とともに、言語や習慣はもとより文化や価値観を異にする外国人と触れ合う機会が、ますます増えてきます。若者が海外に出て、多様な人々と交わることで切磋琢磨したり、日本国内においても、より多くの外国人が各地を訪れることで、一層交流が深まってきます。

こうした大きな世界の動きや社会の変化を背景に、経済同友会では、経営者が中学校や高等学校

の教育現場に赴き、わが国の経済社会が抱える諸課題やグローバル化の動向等について、出張授業の形式でリアリティをもって生徒たちに伝える活動を実施しています。この活動も今年で18年目を迎えましたが、2015年度における東京都内の中学校・高等学校に対する出張授業の回数は58件に上り、延べ156人の経営者が教育現場に出向いて、講師として出張授業を行いました。

社会全体で教育を支えることの重要性が認識されるなか、実社会でワールドワイドに活躍する経営者が、学校教育ではカバーしきれない分野の授業を行うことで生徒たちを啓発する活動は、経済界による教育支援として、意義の大きい取り組みと考えています。

これからの社会は、世界に通用する英知に溢れ活みなぎる人材や、忍耐力を備え何事にも柔軟に対応して道を切り拓くことができる人材を求めています。あるいは、仕事に欠かせないスキルをしっかりと身につけて、実践の場で活躍できる人材を必要としているのです。次代を担う生徒たちには、早い段階からこうした社会のニーズを汲み取って、学びを深めて欲しいと思います。これらを理解しながら学ぶのとそうでないのでは、やりがいや成果に大きな差異が生じます。自身のキャリアビジョンをしっかりと描きながら、目標に向かって成長していくことが望まれます。そして、将来は自分たちがそれぞれの仕事を通じて、また、役割に応じて社会に貢献しながら自己実現を図っていくという意識を持って頂きたいと思います。

実習や教科に加えて、生徒たちと共に未来を考えながら希望を育てていくことも、産業教育が有する重要な価値であると考えます。(了)



〈実践報告〉

伊豆大島の地域資源「ツバキ」を活用した教育活動について

東京都立大島高等学校

主任教諭 金子 雄

1 はじめに

本校は創立73周年を迎え、普通科2学級・併合科（農林科・家政科）1学級の各学年3学級、生徒数は全校で141名、小規模ながら地域に根差した学校です。校内には伊豆大島の象徴である椿、その園芸品種を蒐集した椿園があり、今年「国際優秀つばき園」に認定されました。



全国農業高校収穫祭の様子

2 教育活動

(1)椿油づくり

伊豆大島はヤブツバキ約300万本が自生し、古くから椿油が作られてきました。椿油は化粧用にも食用にもなる大変優れた特産物です。本校では生徒に呼びかけて椿の種実を集め、地域の事業者と連携しオリジナルの椿油を製造、販売しています。昨年の全国農業高校収穫祭では「お客さま賞」を頂くなど大好評でした。

(2)椿学

生徒が学んだことを発表する場として、「さし木教室」や「椿ガイド」を実施しています。わかりやすく教えるために創意工夫するという学びの場になっているだけでなく、地域の方とツバキの魅力を共有でき

る場になっています。

(3)国際優秀つばき園への道

国際ツバキ協会が認定する国際優秀つばき園は全世界に約50か所ありますが、本校は教育機関としては世界初の認定になりました。認定には厳しい基準を満たすのはもちろん、海外の理事の現地審査を受けなければなりません。1年以上かけて準備を進めると共に、生徒全員で英国の理事に英語で案内・説明しました。結果、大変良い評価を頂き認定を得ることが出来ました。

これらの活動を生徒が発表し、昨年のイオンエコワングランプリで審査員特別賞、日本森林学会高校生ポスター発表で最優秀賞を受賞することができました。

3 今後について

ツバキの学びから、生徒は地域の魅力に気づき、取り組みに自信と誇りを持てるようになりました。地域の方々にも大いに応援・ご協力頂いています。農林科の生徒数が増加したことも大きな成果です。地域資源を活かした学校の取り組みを地域再生の力につなげる、そんな産業教育をめざし今後も精進していきます。



「国際優秀つばき園」認定記念イベントの様子

〈実践報告〉

職業実践力育成プログラムの開発

文部科学省「成長分野等における中核的専門人材養成等の戦略的推進」事業
「保育士・幼稚園教諭に対するキャリアデザインプログラムの開発と新たな認定制度の検討」より

日本ウェルネススポーツ専門学校

校長代理 鳥居 哲夫



1 はじめに

本校は、1998年（平成10年）4月に開校された体育スポーツ・健康づくり及び、情報技術に関する知識・技能を修得するための専門教育を行い、その分野における指導並びに社会活動に対応し得る人材を育成する専門学校です。

2 文部科学省事業報告

文部科学省が平成23年度から進めてきた「成長分野等における中核的専門人材養成等の戦略的推進事業」を、平成26年度、続いて平成27年度に「保育士・幼稚園教諭に対するキャリアデザインプログラムの開発と新たな認定制度の検討」というテーマで受託し、幼児教育関係者の資質向上にむけて「ヘルスプロモーション」を基本としたカリキュラムを開発しました。そこで本稿では、その2年間の成果の概要を報告します。

(1)現状の問題と課題

現代社会は、少子化、核家族化、都市化、情報化、国際化等の急激な変化を受けて、人々の価値観や生活様式が多様化しています。このような状況下、現在の幼稚園等施設の教員や保育士等には、小学校就学までに育むことが期待される「生きる力」の基礎となる教育力、子どもの成長をめぐる環境変化対応力、幼稚園等施設と家庭や地域社会の連携、発育発達や学びの連続性を保持し教育を展開する力、特別な教育的配慮を要する幼児の対応力、小学校等との連携推進能力など高度な専門性が求められています。

(2)事業の目的

そこで本事業では、保育士・幼稚園教諭等の生きがいや地位の向上、資質向上に焦点を当て、専門能力の向上に寄与するため、①ヘルスプロモーション・健康教育（行動変容）の理論と実践、②豊かな心を培うための具体的方策の理論と実践、③生きる力を身につけるためのライフスタイ

ル改善の理論と実践、④魅力ある支援者としての社会環境適応能力の理論と実践の4つの教育内容から成るキャリアデザインプログラムを開発し、これに基づく資格認定制度の創設検討を通して、子育て分野における中核的人材の育成（健康教育専門家の育成）に寄与することを目指しました。

(3)事業の概要

ア. 実証講習会の実施

平成26年度の成果に基づき、実証講習会を行いました。※全日程9日間（10:00～17:00）

イ. カリキュラムの開発（DVD作成含む）

現行の幼稚園、保育園等での学習内容の問題点として、「科学的根拠に乏しい」、「心の健康教育が不十分」、「異世代交流が考慮されていない」などが指摘されていることや平成26年度の成果結果を踏まえて、教材のブラッシュアップを図り、計52教育内容・教材（理論：22教材、演習：12教材、実技：18教材）を開発しました。

ウ. 開発教材と国が期待する社会人能力との関連

開発したカリキュラムのうち、17教材を健康教育科目とし、文部科学省が中核的専門人材に求められる知識等として位置づけた内容（基礎知識、対人関係能力、自己開発能力、問題解決能力）と関連付けました。

エ. 新たな認定制度の創設

上記のカリキュラムをプログラム化し、新たな認定制度の創設に向け進行しています。

3 おわりに

本事業は、保育士・幼稚園教諭等、幼児教育関係者に向けた人材養成を目的としてプログラムを開発しました。今後は、文部科学省公認プログラム（BP）申請ならびに、関連施設においての正課としての導入等、資格普及を進めていきます。

（本校HP <http://www.taikenku.edu/>）

「学校と企業で学び、成長する素晴らしさ」

東京都立六郷工科高等学校

デュアルシステム科3年中村 悠

私は現在、東京都立六郷工科高校デュアルシステム科で、三級旋盤技能士の資格に関することや機械設計・工作に関することを学んでいます。デュアルシステム科は、学校と企業が連携して生徒を職業人に育成することを大きな目的とした、世界的に珍しい全く新しい学科です。そのため外部からの視察者が来るなど多くの人から注目されており、「デュアルシステム科」の名にふさわしいように日頃から挨拶や礼儀などに気を付けながら過ごしています。

デュアルシステム科は、入学してすぐに一般企業で働いていた経験のある先生方がマナー講習を行い、守秘義務に関することやメモの取り方、名刺交換の仕方など、企業で研修する上で必要なことを学びます。それから計7回の企業見学に行き、実際に自分の目で見るなどして学びたい技術があるかどうかを判断します。そして研修する企業を決め、5日間のインターンシップ研修に2回行きます。また研修に行くまでには課題の提出や日頃の授業態度等が出来ていることという条件が課されます。この厳しい条件をクリアするためにクラスの仲間と協力しながら頑張ったので、今では一人一人が頼れる友達であると同時に、強い絆のあるクラスになったと感じています。

インターンシップ研修は、2社の企業で行います。学んだことを実践する場であり、8時間に及ぶ研修を体験することが目的ですが、それに加えて私は働いている人の背中を見ることができ、自分自身が挑戦したいことの方角性を見出すことができました。さらに学校で味わうことのない緊張感や任された仕事への責任感を体験できました。

2・3年次では、長期就業訓練に行きます。インターンシップとの違いは、企業での研修を前期と後期に1か月間ずつ行うことです。また技術を見るだけでなく、実際に技能を身に付け基礎知識を深めることも目的になります。実際に長期就業訓練を行う上で、私は「一人の生

徒ではなく一人の社会人」として対応できるよう、学校で学んだことをフル活用して研修に励みました。これから始まる3年次の長期就業訓練も、「一人の社会人」として認められるよう頑張ってきます。

これら全てが学べ、成長できるのは、生徒の個性を理解して強みにしてくれる先生方や、技術と知識を惜しみなく教えてくださる提携企業の方々のおかげです。多くの人に支えられながら高校生活を送っていることに感謝しています。

高校生活での残された時間の中で、先輩方から受け取った、デュアルシステム科の実績というバトンを、自分たちでさらに積み上げ、後輩たちにバトンタッチしていきたいと思います。



旋盤実習風景



二年次の長期就業訓練時の様子

「地域を支える鉄道員にあこがれて」

私立岩倉高等学校

運輸科3年 佐藤 康平

私は現在、那須塩原駅から新幹線で通学しています。岩倉高等学校運輸科では、鉄道に関する知識や技術、お客様とのコミュニケーションツールである、ホスピタリティーについて日々勉強しています。岩倉高校は、日本で2校しかない鉄道に関する授業を受けることができる学校で、鉄道員になるという同じ目標を持った仲間が多く、また、就職だけでなく、進学など、様々な夢を追いかけることができ、日々の学校生活はとても充実しています。

岩倉高校は、部活動や地域活動が盛んで、地元地域である台東区の清掃ボランティアである「大江戸清掃隊」に全校生徒が参加し、地域の美化活動を行っています。また、資格取得も盛んで、旅行業界では必須資格ともいえる国内旅行業務取扱管理者をはじめ、英語検定や漢字検定、少し珍しい資格として世界遺産検定や観光英語検定などの資格取得に力を注いでいます。私自身、夏休みの講習会や、先生方の支えがあり、昨年の10月に行われた国内旅行業務取扱管理者試験と世界遺産検定で3級に合格することができました。

普段の学校の授業では、現代文や古典、数学といった主要教科のほかに、運輸科の授業では旅行者と旅行業者の契約について定めた旅行業約款や日本各地の観光資源についての授業、鉄道に関する教材を使って、運賃の算出を行ったり、実物の電車を使って車両の仕組みや構造を学習したりと鉄道や旅行に関する幅広い勉強をすることができます。また、3年生になった現在は、これまで2年間の学習の成果を踏まえて神戸で開催される「全国高等学校観光選手権大会」に向けて、地域おこしにつながるような体験型観光プログラムを考え、発表に向けて取り組んでいます。2年生の夏休みには、鉄道会社で鉄道実習というインターンシップをさせていただく機会があり、お客様の立場に立ったサービスや駅員の方々の仕事を間近で見ることができ、とても良い経験をすることができました。

岩倉高校では、授業だけでなく、先輩方が多

く働いているJR東日本の上野新幹線第二運転所や京成電鉄・宗吾車両基地を見学したり、実際に駅員として働いている先輩方を学校にお招きして、就職の成功秘話を聞かせていただいたり、放課後には、就職指導室などで求人情報や今まで面接を受けてきた先輩方の報告書などを見て就職に向けた準備をしています。また、個人的な活動として、学校が休みの日を使って志望する会社の鉄道に乗ったり、会社の取り組みや理念について調べたりするなど企業研究を行っています。

高校を卒業後は、鉄道係員として鉄道会社に就職したいと思っています。鉄道会社には、岩倉高校出身の先輩社員もたくさんいらっしゃると思います。その先輩方に追いつけるよう、今は学校での生活に全力を注いでいきたいと思っています。



新幹線での通学時間も無駄にできません。



教育用鉄道シミュレータで運転や車掌の業務を学習しています。

東京書籍株式会社

本社 東京都北区堀船 2-17-1 TEL: 03-5390-7200
 代表取締役社長 千石 雅仁 創業 明治 42 年
 資本金 8,000 万円 従業員数 500 名

【事業内容】

東京書籍は日本の教科書出版のリーディングカンパニーとして、世界でも有数の教科書会社です。「教育と文化を通じて人づくり」を企業理念とし、より良い教科書をより多く発行することで、新しい時代に挑戦する個性的、創造的な人材の育成を目指しています。小・中・高校教科書発行部数で業界首位であり、学習教材・指導用教材、学習参考書も発行しています。

さらに、デジタル教科書など教育用デジタルコンテンツの開発・販売、教育総合ポータルサイト運営などのインターネットサービス、学力・体力テストなどの各種評価事業、一般書籍・電子書籍、辞典等の出版、日本語検定関連業務まで事業領域を拡大し、時代の変化に即応した活動をしています。

また、日本初の教科書図書館「東書文庫」を附設、所蔵資料約155,000点のうち76,420点が国の重要文化財に指定されています。

【青少年へのメッセージ】

東京書籍では、技術・家庭、家庭、情報といった産業教育と密接に結びついた教科の教科書を発行しています。これらの教科の学習を通じて、基礎的な技能とともに、生活や社会の中で直面する問題を主体的に解決する力を身につけていただきたいと思います。



中学校教科書『新編 新しい技術・家庭』
 技術分野と家庭分野

千住金属工業株式会社

本社 東京都足立区千住橋戸町 23 TEL: 03-3888-5151 (代)
 代表取締役社長 鈴木 良一 創業 昭和 13 年
 従業員数 2,300 名 <http://www.senju-m.co.jp>

鉛フリー化をリード

知って、改めて「親近感」を覚える会社といえます。国内主要納入先は500社、それが海外となると1,500社にのぼります。千住金属工業は、昭和13年の千住鉛工場としての創業以来、はんだ材料と、はんだづけ(FA)装置、そして自動車や建設機械、油圧精密機械などに使われるすべり軸受けを提供しています。

「はんだ(半田・盤陀)」と検索すると、どの国語辞典にも「金属の接合剤にする錫と鉛の合金」といった説明があり、英和辞書で「SOLDER」を引けば、「はんだ」以外に、比喩的に「接合物」「絆」といった意味があることがわかり、多様なものを接ぎ合わせます。はんだには、ここ20年の間に、国語辞典に書き換えを迫るような変化が起きました。地下水に流れ込んで環境を汚染してしまう鉛を使わない、「鉛フリー」のはんだ材料の実用化。それが千住金属工業が平成8年に開発して商品化、市場投入した「ECOソルダー(M705)」であり、取得した特許を公開することで鉛フリー化が世界で進みました。

紛争フリー宣言

こうした活動が、世界的に評価されて、インテルコーポレーションが世界の企業のなかから優れた業績を収めた供給企業に贈るSCQI(Supplier Continuous Quality Improvement)賞を平成27年まで7年連続で受賞しました。鉛フリーの結果、はんだの主材料は錫です。「コンゴ民主共和国やその近隣で不正に産出される錫が武装団体の資金源となる「紛争鉱物問題」が深刻化しています。この問題に対して、定期監査などで不正産出でないことを確認して「紛争フリー宣言」を行い、サプライチェーンとしての責任を果たしています。



平成 26 年 10 月からは、千住橋戸町の本社と京成千住大橋駅間の歩道の清掃を開始。足立区の清掃美化活動実施団体としても認定されました。

新会員企業・学校の紹介

公益社団法人東京都専修学校各種学校協会

〒151-0053 東京都渋谷区代々木1-58-1
TEL: 03-3378-9601 FAX: 03-3378-9625

当協会は東京都内の専修学校・各種学校を代表する唯一の団体として、会員校の連携・協力のもと専修学校・各種学校教育の充実振興に努めています。

昭和36年11月に法人認可を受けた当協会は、平成24年3月には内閣府より公益認定され、より公益性の高い事業運営を心がけております。

東京都内には400校を超える専修学校が設置されています。高校卒業者以上を入学対象とした専門課程（専門学校）、中学卒業者以上を入学対象とした高等課程（高等専修学校）、また特に入学資格を問わない1年以上の学科を設置する一般課程に分かれ、いずれも日本のキャリア教育・職業教育を支える存在として様々な学科に14万4千人以上の学生・生徒が在籍しています。

さらに、専修学校制度の母体となり、現在では日本語学校やインターナショナルスクールなどが所属となる各種学校も都内に約150校設置されています。

これらの学校種を会員とする当協会は、専修・各種学校教育の充実振興ならびに職業教育の発展に向けた様々な事業を展開しております。

【専修学校に設置されている主な学科】

コンピュータ・IT/ゲーム・CG・Web/エレクトロニクス/メカニカル・自動車整備/土木・建築・インテリア/フラワー・園芸/環境・バイオ/医療/医療秘書・医療事務/栄養/調理/製菓・製パン/理容・美容/メイク・エステ・ネイル/幼児教育・保育/福祉/経理・会計・

経営/貿易・販売・ビジネス/旅行・観光・ホテル/交通・運輸/ファッション/公務員・法律・不動産/出版・広告・マスコミ/放送・映画・映像・アニメ/写真・美術・マンガ/デザイン/語学・国際/音楽・演劇・声優/スポーツ/動物

【協会の主な事業】

- 1.各種研修・セミナーの開催
教員向け研修、管理者研修
高等学校教員向け専門学校セミナー
- 2.調査・研究活動
在籍調査、学生・生徒納付金調査
- 3.学生作品の発表
専門学校アート&デザイン展
映像フェスティバル
- 4.出版物の制作・発行
東京都専修学校各種学校分野別名簿
東京都高等専修学校概要
東京都専門学校概要
学生・保護者・社会人のための専門学校ガイド
- 5.情報発信
インターネットによる情報提供
協会ホームページ www.tsk.or.jp/
Facebook facebook.com/tskjp
キャリア教育における講師派遣
高等専修学校進学相談会

町田・デザイン専門学校



〒194-0022 東京都町田市森野1-26-8
TEL: 042-726-3211 FAX: 042-726-3213

「やりたい」を「できる」に！

実践的なカリキュラムでトコトン学ぶ、それがプロへの第一歩。

<建学の精神>

- 一、時代に適応する確かな専門技術の基礎を教育する
- 一、個性と創造性を発揮し生涯を通して人間性豊かに生きる人材を育成する
- 一、育成された技能者の活動を通して地域の産業と文化の発展に寄与する

<校訓> 感動・奮起・向上

<教育理念> デザインを通じて社会に貢献する人材を育成する。

創立38周年を迎えた総合デザイン系専門学校です。第一線で活躍するプロ講師陣が基礎から就職まで徹底サポートしています。また、学内の授業だけにとどまらず、学外での活動にも積極的に参加。企業との実践教育＝デュアルシステムにおいて、実際の仕事の現場も体験し、即戦力になるための「技術」×「人間力」が2年～3年で習得できる学校です。m d cスタイル＝ピアカウンセリング教育で、学生の、夢の実現「夢は現実となり諦めなければ必ず叶う！」をお手伝いします。

■プロの世界へ導く・・・本科8学科38専攻

建築デザイン科、インテリアデザイン科、雑貨・プロダクトデザイン科、グラフィックデザイン科、イラストレーション科、Web・CGアニメーション科、まんが科、コミックイラスト科

●働きながら学べる・・・通信制2学科

二級建築士受験科、建築デザイン科

授業風景



本館1号館

平成28年度 総会・講演会の報告

平成28年度総会を6月16日(木)午後2時より千駄ヶ谷の全商会館3階で開催しました。来賓に公益財団法人産業教育振興中央会事務理事 富岡逸郎様、東京都立高等学校長協会副会長 齋藤義弘様、東京都中学校長会総務部副部長 江川 登様をお迎えし、39名のご出席を得ました。開会にあたり、西澤宏繁会長及び東京都教育委員会より挨拶があり、その後、来賓の方々よりご挨拶をいただきました。議事においては、昨年度の事業報告、決算書、そして、本年度の事業計画と予算書が承認されました。また、東京都教育庁の職名変更に伴う会則の一部改正が行われました。

総会終了後、引き続き講演会が行われました。出席者数は41名で、株式会社杉野ゴム化学工業所代表取締役社長 杉野行雄氏を講師として、『「江戸っ子1号」に賭けた夢』という演題で行われました。

講演内容：東京下町で町工場の夢と技術を結集して挑んでいる商業海底探査装置「江戸っ子1号」の開発プロジェクトの内容とそこに賭けた思いを、成功と苦難のエピソード

を交えながら語っていただきました。あわせて、グローバル化の波が押し寄せ空洞化にあえぐ日本のモノづくり中小企業の生き残り策、リーダーとしての心構え、モノづくりの面白さや喜び、産業教育に期待することなどを提言していただきました。

本年度の役員を紹介します。

会 長	西澤 宏繁
副 会 長	金子 昌男
副 会 長	小林 治彦
副 会 長	高石 公一
常 任 理 事	早川 剛生
同	星 政典



西澤会長の挨拶



杉野行雄氏による講演会

平成28年度「作文コンクール」 作品募集のご案内

当会主催「作文コンクール」の作文を募集中です。対象は当会会員校の中学生及び専門学科等の高校生、専修学校生等です。募集要項等の案内文はすでに各会員校に配布しておりますので、ご確認ください。さらに当会のホームページにも掲載しております。

応募者の中から入選者に賞状と記念品を、入選者以外の応募者全員に参加賞を贈呈いたします。さらに、入選作品は入選作品集「明日に生きる」に掲載して、会員校や会員企業、教育機関等に配布します。

なお、応募の締め切りは9月9日(金)です。多くの生徒や学生からのご応募を期待しております。

全国産業教育フェア石川大会のお知らせ

1. 期日：平成28年11月5日(土)・6日(日)
2. 会場：石川県産業展示館・いしかわ総合スポーツセンター・金沢学院大学・ホテル金沢
3. 内容：式典、記念講演、作品展示、体験・実演コーナー、展示販売、作品・研究発表、意見・体験発表、参加・交流イベント、キッズビジネスタウン、世界農業遺産シンポジウム、全国高校デパート、競技大会等
国際交流広場、企業・大学・専門学校等の展示、金沢周辺バスツアー、知的財産に関する創造力・実践力・活力開発事業等。

第17回全国中学生創造ものづくり教育フェア — 中学生ものづくり甲子園 —

1. 期日：平成29年1月21日(土)・22日(日)
2. 会場：TOC有明4階、女子栄養大学(21日)
3. 内容：中学生ものづくりコンテスト(生徒作品コンクール、木工チャレンジコンテスト、創造アイデアロボットコンテスト、パソコン入力コンクール、あなたのためのおべんとうコンクール、豊かな生活を創るアイデアバッグコンクール)、体験セミナー(おもちゃ作り等)、教材・産業紹介(教材・書籍・企業商品)、技術・家庭科研究会

事務局より

- 平成28年度会報「東京の産業と教育」第150号をお届けいたします。発行に際しまして皆様にご協力をいただきましたことを深く感謝申し上げますとともに、厚く御礼申し上げます。
- 東京の産業教育をさらに飛躍させるためにも、情報等を提供しております。
- 会員の皆様からの御感想や御意見等がありましたら当会までお寄せください。
- 会員の募集も行っております。

発行 東京都産業教育振興会
〒163-8001 東京都新宿区西新宿2-8-1
東京都教育庁都立学校教育部
高等学校教育課内
電話 03-5320-6729
FAX 03-5388-1727
印刷 昭和印刷株式会社